

## —あおぞら—

## 「大気環境未来60」募金の運用

公益社団法人大気環境学会副会長  
「大気環境未来60」募金審査委員会委員長  
近藤 明

大気環境学会が2019年12月に創立60周年を迎えることを記念して、2018年4月から2020年3月まで「大気環境未来60」募金をお願いしてまいりました。この期間に、多くの企業の方から、また多くの会員の皆様からご厚意を頂き、およそ300万円の募金が集まりました。改めまして、寄付を頂いた方に厚く御礼申し上げます。

募金の開始にあたって「大気環境未来60」募金規程を、2017年12月に制定いたしました。規程の第3条では、この募金の運用対象事業を、①小中高生を対象とした大気環境に関する啓蒙活動、②大気環境に関する研究に従事する若手研究者の育成、③大気環境に関する国際交流(特に日中韓交流)の支援の3つと定め、規程の第4条では、運用は2019年度から開始し10年間で終了とするとし、また規程の第5条では、事業への応募方法を、規定第6条では、「大気環境未来60」募金支給候補者の選考は、「大気環境未来60」募金審査委員会が行うと決めました。

夢は大きく募金の目標金額を1000万円とし、年間100万円の事業を行い、10年間運用することを想定して、募金規程の第4条を作成しました。残念ながら募金の目標金額に達しませんでした。しかし、「大気環境未来60」募金審査委員会では、運営期間を6年から7年とし、およそ年間50万円でこの事業を推進することといたしました。

募金規程に従い、2019年度に第1回目の公募を学会HP上で募りました。申請方法は、学会HPから申請書をダウンロードし、必要な項目を記入して申請します。申請書に記入すべき項目は、1. 申請者に関する事項、2. 申請者の研究に関する事項、3. 申請する「大気環境未来60」募金規程に定める事業の選択、4. 事業課題名、5. 事業の概要(400字以内)、6. 事業の目的(400字以内)、7. 事業の方法(800字以内)、8. 事業の必要性及び期待される成果(800字以内)、9. 事業の特色・独創的な点(800字以内)、10. 所要経費の10項目です。

2019年度は2件の申請があり、1つは、大気環境に関する国際交流、特に日中韓交流に関する事業で、事業課題名は、日中韓国際シンポジウム「For a better understanding of air pollution in East Asia」の開催で、もう1つは、小中高生を対象とした大気環境に関する啓蒙事業で、事業課題名は、都市部におけるPM<sub>2.5</sub>の測定及び評価による大気環境の知見の共有と啓蒙、持続可能な社会の構築に寄与できる人材の育成でした。2019年7月に「大気環境未来60」募金審査委員会にお

いて、2件の事業は、「大気環境未来60」募金規程に定める事業に一致しており、事業内容も実施可能であるので、助成することに決定しました。

大気環境学会は、韓国大気環境学会(KOSAE)及び中国環境科学学会大気分会(CSES)とそれぞれ学術交流覚書を取り交わし、各国の年会時に共同シンポジウムを開催することになっています。2019年度は大気環境学会創立60周年にあたり、東京農工大学で開催された大気環境学会年会において、日中韓国際シンポジウム「For a better understanding of air pollution in East Asia」が、多くの会員に方に参加を頂き、成功裏に実施されました。1つ目の助成金は、このシンポジウムで講演を頂いた中国及び韓国からの講演者に対する旅費に使用されました。

もう1つの申請は、高校生が、高校内の生活空間(例えば下足室、体育館、会議室、更衣室、中庭)と通学空間(例えば公園、川沿い、地下鉄出入口、地下鉄駅構内)で、ヤグチ電子工業のポケットPM<sub>2.5</sub>センサーを利用してPM<sub>2.5</sub>濃度を測定し、身近な大気汚染問題を実感してもらうという内容です。助成金は、ポケットPM<sub>2.5</sub>センサーと接続用のスマートフォンの購入に使用されました。PM<sub>2.5</sub>の測定結果は、2019年12月の大気環境学会近畿支部学術発表会で、測定を実施した高校生により披露されました。この発表は秀逸でしたので、多くの方に見て頂きたいと、その一部を大気環境学会HPにも掲載させて頂いています。新着情報内の「大気環境未来60」事業の次回公募ご案内の項目内(—「高校生による生活環境下におけるPM<sub>2.5</sub>の測定と評価」—発表用\_ダイジェスト版と発表用の動画を静止画に編成)で、内容を見ることができます。是非ご覧ください。

募金が尽きるまで毎年、①小中高生を対象とした大気環境に関する啓蒙活動、②大気環境に関する研究に従事する若手研究者の育成、③大気環境に関する国際交流(特に日中韓交流)の支援を対象事業に申請を募っていきます。申込期間は、毎年6月1日から6月30日の1か月間とし、大気環境学会HPに「大気環境未来60」事業公募ご案内と題して、詳細を記載していきます。博士課程学生の国際会議発表等は、大気環境に関する研究に従事する若手研究者の育成の対象事業に該当しますので、奮って申請してください。また、大気環境学会会員のお知り合いの小中高教員がいましたら、共同で小中高生を対象とした大気環境に関する啓蒙活動に積極的に申請してください。